

第 77 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 構造分科会 議事録

1. 日 時:2013 年 8 月 1 日(木)13 時 30 分～17 時 05 分
2. 場 所:日本機械学会 第 2 会議室
3. 出席者:飯田(東電)、西野(配管技術研究協会)、西田(三菱重工)、島田(東芝)、小高(富士電機)、
根岸(関電)
代理者:なし
欠席者:堀(パナソニック日立)、堤田(日立)
オブザーバ:高野(中電)、位田(川崎重工)、谷口(川崎重工)
事務局:海野(記)

4. 配布資料

- 77-1 . 第 76 回構造分科会議事録(案)
- 77-2 . 構造分科会委員名簿
- 77-3 . 第 64 回火力専門委員会議事録(案)
- 77-4 . 第 65 回規格委員会議事録(案)
- 77-5 . 審議レビュー票
- 参考1 . 正誤表サンプル

5. 議題

(1) 前回議事録確認

[資料 77-1]

前回議事録(案)について確認を行なった結果、意見等は特になく、議事録案は承認された。

(2) 分科会委員・役員の承認

[資料 77-2]

新任候補として高野氏(中部電力)、谷口氏(川崎重工業)が推薦され、出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会への推薦が承認された。再任候補として飯田委員の再任意向が報告され、出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会への推薦が承認された。また、谷川委員、長谷川委員、齋藤委員の退任が報告された。

飯田主査の委員再任に伴い、主査の互選が行われ飯田委員が再任候補として出席委員全員の賛成により次回火力専門委員会への推薦が承認された。

(3) 報告事項

(3-1) 火力専門委員会報告

[資料 77-3]

第 64 回火力専門委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 火力専門委員会委員・役員の推薦承認
- ・ 各分科会委員・役員の承認
- ・ 第 76 回構造分科会報告
- ・ ASME 規格値取り込み方針内規発電用設備規格委員会書面投票結果報告
- ・ ASME 規格値取り込み方針内規書面投票意見対応案審議・承認

- ・ 発電用設備規格委員会倫理規定の提案について

発電用設備規格委員会にて日本機械学会倫理規定で不足している規格制定に関する補足倫理規定を定める提案がなされている。審議の結果、発電用設備規格委員会および各専門委員会での書面投票を行うことが承認されている。それを受け火力専門委員会での書面投票開始の審議が行われたが、当日の紹介であるため、書面投票開始の是非が判断できないとの意見があり、次回火力専門委員会まで当該提案資料を各委員にて内容を確認し、あらためて書面投票開始の審議を行うこととなった。

補足倫理規定は分科会委員も適用対象となるため、JSME 規格委員会 HP 委員会共有スペースの火力専門委員会会議資料に保存してある提案資料を、各自で確認することとした。

(3-2) 規格委員会報告

[資料 77-4]

第 65 回規格委員会の審議内容のうち、火力に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 火力専門委員会委員・役員の承認
- ・ 火力専門委員会報告
- ・ ASME 規格値取り込み方針内規の承認
- ・ 火力専門委員会関連の審議事項は無し

(4) 審議事項

(4-1) レビュー票審議

[資料 77-5]

(4-1-1) 前回レビュー票審議のフォロー

◎Ⅲ章

- ・ APPENDIX IV
 - ・ 修正コメント反映。

◎Ⅳ章

- ・ APPENDIX 32
 - ・ 修正コメント反映。

(4-1-2) 今回レビュー票審議

担当委員の作成した以下のレビュー票案について審議した。

◎Ⅲ章

- ・ PG-67～73(島田委員)
 - ・ 圧力逃がし弁の定義(説明)を加えることを検討する
 - ・ ASME の SI 値取入れを反映する
 - ・ PG-67.1「安全弁」→「圧力逃がし弁」の用語変更漏れを修正する
 - ・ PG-67.2.1.2 他の追加項目、追記・削除事項等の要審議項目について各委員にて確認し、取り入れ可否を検討する
 - ・ PG-73.6 誤記修正する「照明」→「証明」

◎Ⅳ章

- ・ UW-1～15(飯田主査)
 - ・ UW-2(b)(1)の Part UHA 引用部分の記載方法について、各委員にて確認し、修正

案の適否を判断する

- UF-1～125(高野氏)
 - UF-5(c)(d)グレード L 材料の II 章有無を確認する
 - UF-5(c)654MPa, UF-5(c)(d)-28℃について, ASME SI 値取り入れ可否を再確認する
- APPENDIX 4(位田氏)
 - 表 4-1 の許容欠陥寸法の SI 値について, 元々の考え方に整合するように, JSME2012 版を参照して修正する
- APPENDIX 6～12(位田氏)
 - A-7-3(b)(3)UT 探触子の移動距離を ASME の SI に合わせて 50mm(きりの良い数字)に修正する
 - A-10-13(b)(3)「どんなものにでも」→「すべての」に修正する, 「applicable」「proof test」について適切な用語を用語集へ反映する
- APPENDIX 14～23(根岸委員)
 - A-17-1(c)「complete penetration」について「完全貫通」→「完全溶け込み」に修正する
- APPENDIX 31, KK(飯田主査)
 - A-31 は取り入れる
 - A-KK の取入要否は, 引用部分の資料も揃えて次回再審議する

◎V 章

- 審議なし

これら, 本日審議を行ったレビュー票について, 後日でも気が付いた所があれば, その都度, メールで連絡することとした。

6. 次回開催予定

日 時:2013 年 11 月 6 日(水)13 時 30 分～17 時 00 分

場 所:日本機械学会 第2会議室

以 上